第５学年〇組　道徳学習指導案

平成２０年　　月　　日（〇曜日）第〇時限　　指導者　平　子　晶　規

１　主　題　名　　友の肖像画　　２－（３）　信頼・友情，男女の協力

２　主題について

(1) 学級の児童の実態

本学級の児童の多くは，明るく素直であり，下級生に対しては優しく接することができる。また，道徳の時間では，自分とは異なる友達の考えにも耳を傾け，自分の考えを深めていこうとする態度も見られる。しかし，日常生活の中では，まだ自己中心的な考えをもつ児童もいて，友達の気持ちを考えず，勝手気ままに言動に表し，友達を傷つけてしまう場面も見られる。

これは，社会の中で他者とかかわりながら生きることの意味が十分分かっていなくて，共によりよく生きていこうとする気持ちが育っていないからだと考える。

(2) 学習内容

高学年の児童には，真の友情を育てることが求められる。真の友情は，互いに信頼し合って成り立つものである。そして，互いに友達の気持ちを考えて，励まし合い，協力を惜しまないという関係であることが必要である。

しかし，自己中心的な考えに陥ったり，友達の気持ちを考えなかったりして，友達の感情を損なう言動をとってしまう場合も少なくない。

そこで，この時期の児童には，友達の気持ちを考えて，互いに信頼し励まし合いながら，友情を深めていこうとする気持ちをもたせたい。

(3) 資料の解釈と取り扱い

主人公の和也と正一は大の仲良しであったが，正一は突然，体の筋肉が縮むという難病にかかり，九州に療養に行くことになった。二人は文通により友情を確かめ合っていたものの，いつしか正一から便りが途絶えてしまった。和也は正一の状況が分からないまま，勝手に正一が自分を裏切ったと考えるようになった。一年ほどたって，「療養しながら学ぶ子どもたちの作品展」に正一の木版画が出品された。その作品が，自分の肖像画であることを知った和也は，激しい感動と深い反省をおぼえつつ，真の友情とは何かを感得していった。

主人公の和也が友達のすばらしさを発見する過程を通して，信頼で結ばれた人間関係のすばらしさを感じ取らせ，真の友達のあり方について考えさせたい。

３　指導計画（１時間完了）

４　本時の指導

(1) ね ら い

互いに助け合い，信頼し合って友情を深めていこうとする気持ちを高める。

（５）　指導過程

時間	学習活動	教材等	教師の発問	予想される児童の発言や心の動き
５分	１　肖像画を見て，資料に関心をもつ。	肖像画	①　肖像画ってどんな絵か知っていますか。この肖像画を見て，どんなことを思いましたか。	①・ある人の顔を似せてかいた絵を肖像画というんだな。 ・肖像画なら音楽室にある。 ・これは版画の肖像画だ。 ・子どもがかいた肖像画かな。 ・あまりうまくないな。 ・今日の話は肖像画に関係がある。
25 分	２　資料「友の肖像画」を読み，主人公の和也の気持ちについて話し合う。	読み物資料 短冊 肖像画 場面絵		
	⑴　正一を見送る和也の気持ち	短冊 場面絵	②　和也は，手を振りながら，どんなことを考えていたでしょう。	②・幼なじみの正一と別れるのはつらい。 ・正一が早く難病を治して帰って来てほしい。 ・また正一と遊びたい。 ・病気に負けないで，がんばれ。 ・手紙を書くからね。 ・離れていてもずっと友達でいたい。
	⑵　正一からの手紙が来なくなったときの和也の気持ち	短冊	③　正一から手紙が来なくなったとき，和也は心の中でどんなことを考えていたでしょう。	③・正一君，どうしたのだろう。 ・どうして手紙が来ないのだろう。 ・病気がもっと悪くなって，手紙を書けなくなったのかな。 ・手紙を書くことを約束したのに，正一君は約束を破って，ひどい。 ・ぼくのことなど忘れてしまったのかな。 ・九州でぼくよりも仲の良い友達ができたのかな。

指導上の留意点（★は配慮を要する児童への働きかけ）	評価の観点と方法
○　肖像画とは何かを知らない児童がいると考えられるので，「肖像画とは，ある人の顔を似せてかいた絵である」と説明する。 ○　説明した後で，木版の肖像画を提示する。 ○　提示する木版の肖像画は，資料「友の肖像画」の挿絵（静岡県小学校道徳副読本「心ゆたかに」）を活用する。 ○　資料「友の肖像画」の挿絵を提示することにより，資料に関心をもつことができるようにする。 ○　資料を読む前に，主人公の和也と正一が幼なじみであること，導入で提示した肖像画は正一が和也の顔をかいたものであることについて，短冊と肖像画を使って板書で押さえる。 ○　資料を読んだ後，和也と正一が別れ，文通することになるまでの場面の様子について，短冊と場面絵を使って板書で押さえながら整理して，資料理解を助ける。	○　木版の肖像画を見て，資料「友の肖像画」に関心をもつことができたか，発表の様子，話を聞く態度や表情からつかむ。 **○　主人公の和也が友達のすばらしさを発見する過程を通して，信頼で結ばれた人間関係のすばらしさを感じ取ることができたか，発言内容や話合いの様子からつかむ。**
主人公と相手との関係をとらえる ○　和也と正一は幼なじみで仲が良かったという二人の関係をしっかり押さえるようにする。 ○　和也の正一に対する温かい気持ちに気付かせる。 ○　仲の良い正一と別れる和也の寂しさ，病気の正一を思いやる和也の気持ちに共感させる。 ○　正一の病気を気遣いながらも，別れてもいつまでも友達でいたいという和也の気持ちをとらえさせる。	
主人公の人間的な弱さに気付く ○　正一を心配しながらも手紙を書かなくなった和也の気持ちを考えさせる。 ○　和也の複雑な気持ちを「問い返しの発問」で掘り下げていく。 ○　正一を見送ったときの気持ちと比較して，自分も手紙を書かなくなっていった和也の気持ちの変化に気付かせる。 ○　手紙をよこさなくなった正一に対して，不安，疑い，怒りの気持ちを徐々に募らせていった和也の姿をとらえさせる。 ○　発言を「不安」「疑い」「怒り」に整理して板書する。 ○　正一からの手紙が来なくなったため，何となく裏切られたような気持ちになり，正一に手紙を書かなくなった和也の人間的な弱さに気付かせる。	

時間	学習活動	教材等	教師の発問	予想される児童の発言や心の動き
	⑶　正一からの手紙が来なくなったわけを知ったときの和也の気持ち	短冊 肖像画	④　正一が一年もかけて彫り上げた「友の肖像画」を見ながら，和也はどんなことを考えていたでしょう。	④・不自由な手でよくこんなにも彫れたものだ。 ・手紙が来なくなったわけが分かったよ。 ・正一君のことを疑ったりして，ごめんね。 ・手紙を書くのをやめてしまったぼくの方が悪いんだ。 ・正一君は，ぼくのことをこんなにも思っていてくれたんだ。 ・正一君，ありがとう。 ・本当の友達だよ。
	⑷　自分に対する正一の気持ちを想像する和也の気持ち	短冊 表情絵 道徳ノート	**⑤　帰りの電車の中で和也は，自分に対する正一の気持ちをどのように想像したでしょう。**	⑤・和也君，手紙を書けなくて，ごめんね。 ・版画に挑戦して筋肉を鍛え，また和也君に手紙を書けるようになりたいな。 ・版画に挑戦するなら，友達の和也君の顔にしよう。 ・ぼくは，和也君のことを忘れたことはないよ。 ・和也君は，ぼくにとって本当の友達だ。 ・いつまでも友達でいよう。
	相手がどのように思っているかを主人公の視点からとらえさせる発問 **「主人公は，自分に対する相手の気持ちをどのように想像したでしょう。」**			
10分	3　相手にとって自分はどんな友達になりたいかを考える。	道徳ノート	⑥　相手にとって自分はどんな友達になりたいですか。	⑥・困ったときには，助け合える友達になりたい。 ・正一君のように，たとえ距離が離れていても，いつも相手のことを思っている友達になりたい。 ・友達がよくないことをしそうになったら，注意できる友達になりたい。
5分	4　「心のノート」の言葉を聞き，友情を深めようとする気持ちを高める。	「心のノート」	⑦　「心のノート」を読むので，聞きましょう。	⑦・友達っていいもんだな。 ・あの子とずっと友達でいたいな。 ・これからも友達を大切にしていこう。
	友達は，遊ぶ仲間なんだと思っていたけれど／落ち込む私を君が励ましてくれたとき／胸がぐっと熱くなった。そうなんだ，これが友達なんだって／初めて気付いた／あの帰り道。ああ，友達っていい。離れていたって／きっと私のことを考えてくれている。そう思うからこそ／互いに励まし合って／生きていける。			

指導上の留意点（★は配慮を要する児童への働きかけ）	評価の観点と方法
わがままな自分を内省する主人公の気持ちをとらえる ○　隣同士のペアで話し合わせた後，全体で話し合わせる。 ○　自分勝手な考え方をしていた和也が，わがままだった自分を省みたときの気持ちについて考えさせる。 ○　正一の深い友情を知って反省する和也の心情に浸らせる。 ○　正一の立場や気持ちを考えることができなかった自分を恥ずかしく思う和也の気持ちに気付かせる。 ○　真の友情に接し，一層友情を深めていこうとする和也の気持ちを感じ取らせる。	
相手にも目を向ける主人公の気持ちを考える ○　親友として和也のことを思い続けた正一の気持ちに気付かせる。 ○　友情を大切にしようとする和也の気持ちの高まりを感じ取らせる。 ○　「和也は，自分に対する正一の気持ちをどのように想像したでしょう」と発問し，正一がどのように思っているかを和也の視点からとらえさせることで，和也が正一の気持ちにも目を向けたことに気付かせる。 ○　道徳ノートに記述させて，自分の考えをもたせた上で，全体で話し合わせる。 ○　相手にとって自分はどんな友達になりたいかを考えて，道徳ノートに記述させることにより，真の友情のあり方について思い描き，友情を深めようとする気持ちを高めることができるようにする。 ★　単文で書き終えている児童には，机間指導を通して，理由も書くように助言する。 ○　数人の児童を指名して，道徳ノートに書かれた内容を発表させる。互いに助け合い，信頼し合おうとする内容に言及している児童を指名する。 ○　「心のノート」p.46・47 の言葉を読み聞かせる。 ○　「心のノート」p.46・47 を見ながら，教師が読むのを聞くように指示する。 ○　ＢＧＭを流して読み聞かせることで，互いに助け合い，信頼し合って友情を深めようとする気持ちを高めることができるようにする。 ○　児童の心に強く残るように，ゆっくり読み聞かせ，余韻を残して授業を終えるようにする。	***相手がどのように思っているかを主人公の視点からとらえさせる発問について*** **○　正一がどのように思っていたかを和也の視点からとらえ，和也が正一の気持ちにも目を向けたことに気付いたか，道徳ノートの記述内容，発言内容や話合いの様子からつかむ。** **○　真の友達のあり方について考えることができたか，道徳ノートの記述内容や発表の様子からつかむ。** ○　友情を深めようとする気持ちが高まったか，話を聞く態度や表情からつかむ。